僕の言いたいのは、
年上のくせに、京太は　判断の貧しいバカだ、
と　言う事だ。

夕食後、お母ちゃんに散髪頼んだ。
夜になると、目が見にくくなる為、
お父ちゃんに　バトンタッチ。
初めてで、かなり不安。

お母ちゃんの時とは違い、
細かい指示は出さなかった。

どうにでもなれと思った。

お父ちゃん、それでも、
うまく刈ってくれはったが、
右の後ろが、少し、トラガリだった。

しかし、ただである。

新米だし、最初から
今日は覚悟していたし、
別に　気には　しなかった。

でも、京太は　横で　僕の頭を見て
笑いを　こらえていた。

「笑ったら、今度は僕が許さんぞ。」
と、僕は　京太を　にらみつけた。

45　笑ったら今度は僕が許さない・・・・・・・・・192

萩原良昭